

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400017		
法人名	株式会社クレイドル		
事業所名	グループホームいせ木		
所在地	愛知県北名古屋市井瀬木郷前62		
自己評価作成日	令和 2年 6月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNo=2397400017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、散歩を楽しんだり日向ぼっこをしたり、四季を感じて暮らす、そんな我が家のようなグループホームを目指しています。

ご家族様に寄り添い、「いせ木で良かった」と言ってもらえるよう、全職員が思いを共有できるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の過半数以上が開設当初からの永年勤続で、今後の職員の高齢化に備え、ここ数年の課題であった、若い世代の職員採用と育成について、少しずつではあるが改革が進んでいる。勤続年数の長い職員は、ホームにとっても利用者にとっても「安心」の象徴であるが、職員の若返りも必要不可欠であり、サービスの質を維持した状態での世代交代を推進している。各階のリーダー、サブリーダー配置を目標に、今後更なる質の向上に目を向けている。

また、若い職員が増えたからこそそのフォローの必要性を感じ、リーダー・サブリーダーはより具体的な指導に努め、職員育成に邁進している。体制構築に成果が見いだせた今こそ、「いせ木で良かった」と言ってもらえる独自の持ち味を吟味し、定着していただきたいものである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼において事業所理念の唱和を行い、理念の共有を図っている。コミュニケーションを密にし実践に繋げている	「自分の親や祖父母を入居させたいホーム」を念頭に、日常支援の充実を目指している。ホーム理念の唱和で、職員周知と意識統一を図っている。	具体的に、理念から、ユニット目標や個人目標の策定を行うことで、達成度の検証や改善目標等、コミュニケーションツールとしての活用が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に併設の「地域交流センター」を地域の方々に開放。 地域の民謡クラブやヨガ教室、楽器演奏の練習等で使用して頂いたり、施設行事に参加して頂くなど地域交流を図っています。	ホームの地域交流センターの開放や、地域ボランティアの来訪等で地域とつながって来たが、コロナ禍により、地域行事は中止、保育園との交流、ボランティア受け入れ等も中止になり、現在は再会を心待ちにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政が主催した認知症のイベントに出展し、認知症の方への理解に取り組んだ。 運営推進会議において、参加者を通じて地域の方々への周知を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて頂戴した意見や助言等は、できる限りサービスや業務に生かし、その結果についても報告をおこなっている。	1月までは会議開催ができたが、その後は延期を余儀なくされている。今後は実施方法を行政と検討して行く予定である。意見交換で聴取した意見や提案は、ホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方には運営推進会議へ毎回出席頂き、事業所の実情や取り組み等を伝えている。 運営上の疑問点があればすぐに担当者に連絡をし適切なアドバイスを頂いている。	市担当者の運営推進会議出席、随時の情報提供等で連携がある。昨今はコロナウイルス関係の情報提供が多く、ホームとしても対応と対策を話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に則り、定期的に研修を実施するなどの取り組みをしている。	身体拘束委員会を設置し、委員会を3名で3ヵ月毎に実施している。職員への周知は、カンファレンスや、朝礼で行っている。現在も身体拘束の事例はなく、拘束による弊害等を、よく理解し、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングにおいて、虐待防止について周知徹底を図っている。 更衣の際に怪我やアザの有無を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用中の入居者様と社会福祉協議会との面談が1か月に一度あり、情報共有をしている。また行政の主催する勉強会に積極的に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明にならないよう、しっかり時間を取ってわかりやすい説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を促し意見交換をおこなっている。 また家族への小まめな連絡を心がけ、近況についての報告、家族からの意見の聴取に努めている	コロナ禍において、3月から面会制限となっている。以前は面会も多く、運営推進会議に1~2家族が参加したりと、直接の意見聴取ができていた。現在も定期的にお便りの送付で情報発信し、意見を募っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ユニット毎にカンファレンスを行い、管理者やリーダーと意見交換の場を設け運営に反映させている。 職員からの意見がある場合はその都度聞くようにしている。	月1回のユニット会議で職員意見や提案を聞き取っている。その他、全体会議は必要に応じて不定期で実施し、情報共有を行っている。日々の業務の中でも、話を聞く機会を設け、職員意見の吸い上げに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も参加する毎月実施の管理者会議において、職員の就業環境について情報共有を行い、職場環境の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の援助をおこなっている。 また、外部研修にも積極的に参加できる機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北名古屋市のグループホーム交流会に参加し、他施設との意見交換、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にしっかりとアセスメントを実施し、本人が安心して過ごせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	具体例を交えながら、丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。一方的にならないよう家族の言葉に耳を傾けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望、困っていることをしっかり把握し必要な支援を見極めている。医師や看護師、薬剤師などの専門職とも必要に応じて連携を図って対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいるような居心地のいい雰囲気づくりを全職員が心掛け実践している。家事や趣味を一緒に行うなど家族のように毎日を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に参加する行楽や敬老会の行事をおこない家族との関係を深めている。日頃の連絡も密におこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に訪れることも多くある。また馴染みの床屋や喫茶店に行くなどの支援もおこなっている。	コロナ禍以前は、友人知人の来訪があったり、家族外出で馴染みの場所へ出かけることもあったが、現在は難しくなっている。地域からの利用者も多く、住んでいた地域の会合の案内もあり、今後は参加を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握した上で、家事や趣味を一緒にするなど、みんなが関わりあえるようサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は必要に応じて次の入居先について等の相談を受けている。退去後も困ったことがあれば継続して相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望・意向をもとに、ケア内容の検討をおこなっている。	職員全員で利用者全員の意向を把握している。リーダー、サブリーダーはユニット固定で、その他職員は流動的にシフトに入ることから、職員意見の集約は大変意味があるものとなっている。毎月のカンファレンスで、意見交換、集約、周知を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりとっておこなって生活歴等を把握しケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定、排泄状況、水分食事摂取状況を記録、申し送りを行い、体調変化の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となってカンファレンスを実施、多くの意見をケアプランに反映させている	3ヶ月毎のモニタリングと見直しを行っている。毎月のケアカンファレンスでは、職員意見を集約し、利用者の意向に添った計画内容を検討している。各ユニットリーダーが計画作成担当を担い、利用者本位の計画立案を行っている。	サービス担当者会議への家族参加について、更新時必要があれば参加を促すにとどまっていることから、コロナ収束後には、一堂に会する意味を理解していただけるように、働きかけが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの施行状況を把握しやすいよう記録の記載方法を工夫している。個別記録や業務日誌、連絡ノートを活用し職員間の情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問リハビリなど、本人や家族の状況、希望に応じた対応を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民謡クラブの方々との交流を持ったり、盆踊り大会に参加するなど、積極的に交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じてかかりつけ医を選定できる。かかりつけ医との情報共有を密に図り、適切な医療を受けられる体制を築いている。	ホーム協力医の月2回の往診を支援している。入居前からのかかりつけ医受診、専門医受診は家族対応をお願いしている。希望者には訪問歯科の支援もある。医療連携の訪問看護師が協力医の看護師であるので、医師との連携も良く、利用者の安心に込えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約。月に2回、訪問看護を受けている。訪問日以外にも適宜、相談が行える体制を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族だけに頼らず、医師から説明を受ける際は職員も同席しサポートをおこなっている。また看護師や相談員の方との情報交換を密におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の指針の説明を丁寧におこなっている。またご本人・ご家族の意向の確認もおこなっている。	終末期、看取り対応までを希望する利用者・家族は多く、その都度ホームのできる限りの対応を説明し、意向を確認している。協力医の医師や家族の協力を得た、誰もが納得の行く支援提供を方針としている。今年度の看取り事例でも、家族から感謝の言葉がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを用いた救命講習を定期的実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は実施しているが、地震、水害を想定した訓練は実施できてない。地域との協力体制の構築もできておらず今後の課題となっている。	年2回の避難訓練を計画し、現在までに1回は実施ができています。飲食物及び備品の備蓄を行い、有事に備えている。今後水害対策もしていく予定がある。	今後の課題としての認識も高く、水害対策については、早急の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保について、全職員が実践できるよう、日頃より徹底を図っている。	新入職員も含め、朝礼や申し送りで情報共有を図り、全職員同対応の、統一した支援提供を目指している。利用者の安心に配慮した接遇も視野に入れ、認知症対応については、OJTで、教育している。	一堂に会した研修の機会確保の検討が望まれる。全職員の、ホームの目指す方向性理解が急務であると言える。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の自己本位とならないよう、利用者本位のケアを実践できるよう徹底を図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールに囚われることなく、一人一人に合わせたペースで暮らしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服が続いてしまったりしないよう注意を払っている。また季節に合った服装、その方らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食器拭きや片付け、洗い物等を一緒におこなっている。食事は必ず職員と一緒に和やかな雰囲気のもと召し上がっていただいている。	地域のスーパーと八百屋の食材配達を活用している。献立担当が、利用者の希望を取り入れたメニューを考え、両ユニット同じ内容で食事を提供している。行事食の楽しみもある。外食の楽しみはコロナ禍で中止している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた食事形態や量、味付けを工夫している。水分補給はゼリーを摂取することで必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士の助言を受けながら一人一人の状態に応じた口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や適切な声掛けにより失敗を少なくするよう支援している。	現在は自立の利用者が多く、状態向上と現状維持を目標に、それぞれの状態や状況に合わせて、適切に支援している。個人の尊厳に配慮した声掛け等にも工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう、適切に水分補給をおこなっている。また運動不足にならないよう毎日、散歩や体操をおこなって便秘にならないよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に三回の入浴日を設けているが、希望があればそれ以外の日の入浴にも柔軟に対応している	日曜日以外は毎日の入浴を提供している。週3回の入浴を基本に、月・水・金、火・木・土のグループ分けで、入浴管理を行っている。拒否があった場合には、声掛けの工夫や、別日対応等、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中は散歩や趣味の時間、レクリエーションなどを行い、夜間に安眠できるような支援をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との情報共有をしっかりと行い、処方薬の内容の理解に努めている。服薬ルールを厳守し安全に服薬できるよ全職員が努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割の実施や、趣味を楽しむなど、けっして押し付けにならないよう支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を普段から聞き取り、可能な限り希望に添えるよう支援をおこなっている	コロナ禍においても、希望に沿って、散歩、家庭菜園、園芸等、外に出る機会を作っている。全体外出が難しい時節柄、個別や小グループでの外出を実施し、外へ出る機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が強く希望される場合は手元にお金を所持してもらっている。物品の購入は家族とも相談しながら購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人専用の携帯電話を所持し家族や友人と自由に通話をしている方もいる。所持しておらず通話を希望される方には電話を取り次ぐなどの対応をしている。手紙についても同様です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を持ってもらえるよう、共用空間に季節に応じた飾り付けや花を生けるなどを心地よく暮らしていただけるよう配慮している。	ゆったりとした空間づくりを目指し、利用者の状態に配慮した環境整備に努めている。それぞれの動線に合わせた安全確保に工夫し、半面、施設的にならないように配慮もある。清潔保持、季節の飾り付け、室温管理等、生活空間の整備にも余念がない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考慮するなど人間関係が円滑になるよう工夫している。気分や状態に応じ、居室でゆっくりできる時間も自由に取ってもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、使いやすい物を自由に持ち込んでもらい、居心地良い空間づくりを実践している	入居時には、馴染みの物品の持ち込みをお願いし、本人が安心して過ごせる居住空間を工夫している。使い慣れた家具のほか、趣味の物品、家族の写真等、思い思いに配置して、くつろげる居室環境がうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適切な位置に手すりを配置したり、張り紙をしてトイレ等の場所をわかりやすくするなどの工夫をおこなっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400017		
法人名	株式会社クレイドル		
事業所名	グループホームいせ木		
所在地	愛知県北名古屋市井瀬木郷前62		
自己評価作成日	令和 2年 6月 1日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2397400017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 6月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた環境の中で、散歩を楽しんだり日向ぼっこをしたり、四季を感じて暮らす、そんな我が家のようなグループホームを目指しています。</p> <p>ご家族様に寄り添い、「いせ木で良かった」と言ってもらえるよう、全職員が思いを共有できるよう取り組んでおります。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty space for external evaluation comments
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼において事業所理念の唱和を行い、理念の共有を図っている。コミュニケーションを密にし実践に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所に併設の「地域交流センター」を地域の方々に開放。 地域の民謡クラブやヨガ教室、楽器演奏の練習等で使用して頂いたり、施設行事に参加して頂くなど地域交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政が主催した認知症のイベントに出展し、認知症の方への理解に取り組んだ。 運営推進会議において、参加者を通じて地域の方々への周知を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて頂戴した意見や助言等は、できる限りサービスや業務に生かし、その結果についても報告をおこなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方には運営推進会議へ毎回出席頂き、事業所の実情や取り組み等を伝えている。 運営上の疑問点があればすぐに担当者に連絡をし適切なアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に則り、定期的に研修を実施するなどの取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングにおいて、虐待防止について周知徹底を図っている。 更衣の際に怪我やアザの有無を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用中の入居者様と社会福祉協議会との面談が1か月に一度あり、情報共有をしている。また行政の主催する勉強会に積極的に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一方的な説明にならないよう、しっかり時間を取ってわかりやすい説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を促し意見交換をおこなっている。 また家族への小まめな連絡を心がけ、近況についての報告、家族からの意見の聴取に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ユニット毎にカンファレンスを行い、管理者やリーダーと意見交換の場を設け運営に反映させている。 職員からの意見がある場合はその都度聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も参加する毎月実施の管理者会議において、職員の就業環境について情報共有を行い、職場環境の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の援助をおこなっている。 また、外部研修にも積極的に参加できる機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北名古屋市のグループホーム交流会に参加し、他施設との意見交換、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にしっかりとアセスメントを実施し、本人が安心して過ごせるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	具体例を交えながら、丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。一方的にならないよう家族の言葉に耳を傾けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望、困っていることをしっかり把握し必要な支援を見極めている。医師や看護師、薬剤師などの専門職とも必要に応じて連携を図って対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅にいるような居心地のいい雰囲気づくりを全職員が心掛け実践している。家事や趣味を一緒に行うなど家族のように毎日を送っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に参加する行楽や敬老会の行事をおこない家族との関係を深めている。日頃の連絡も密におこなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に訪れることも多くある。また馴染みの床屋や喫茶店に行くなどの支援もおこなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握した上で、家事や趣味を一緒にするなど、みんなが関わりあえるようサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時は必要に応じて次の入居先について等の相談を受けている。退去後も困ったことがあれば継続して相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望・意向をもとに、ケア内容の検討をおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりとっておこなって生活歴等を把握しケアに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、バイタル測定、排泄状況、水分食事摂取状況を記録、申し送りを行い、体調変化の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当が中心となってカンファレンスを実施、多くの意見をケアプランに反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの施行状況を把握しやすいよう記録の記載方法を工夫している。個別記録や業務日誌、連絡ノートを活用し職員間の情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科や訪問リハビリなど、本人や家族の状況、希望に応じた対応を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民謡クラブの方々との交流を持ったり、盆踊り大会に参加するなど、積極的に交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じてかかりつけ医を選定できる。かかりつけ医との情報共有を密に図り、適切な医療を受けられる体制を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約。月に2回、訪問看護を受けている。訪問日以外にも適宜、相談が行える体制を築いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族だけに頼らず、医師から説明を受ける際は職員も同席しサポートをおこなっている。また看護師や相談員の方との情報交換を密におこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期の指針の説明を丁寧におこなっている。またご本人・ご家族の意向の確認もおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを用いた救命講習を定期的実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は実施しているが、地震、水害を想定した訓練は実施できてない。地域との協力体制の構築もできておらず今後の課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーの確保について、全職員が実践できるよう、日頃より徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の自己本位とならないよう、利用者本位のケアを実践できるよう徹底を図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールに囚われることなく、一人一人に合わせたペースで暮らしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服が続いてしまったりしないよう注意を払っている。また季節に合った服装、その方らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には食器拭きや片付け、洗い物等を一緒におこなっている。食事は必ず職員と一緒に和やかな雰囲気のもと召し上がっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に応じた食事形態や量、味付けを工夫している。水分補給はゼリーを摂取することで必要量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医や歯科衛生士の助言を受けながら一人一人の状態に応じた口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握や適切な声掛けにより失敗を少なくするよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないよう、適切に水分補給をおこなっている。また運動不足にならないよう毎日、散歩や体操をおこなって便秘にならないよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に三回の入浴日を設けているが、希望があればそれ以外の日の入浴にも柔軟に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう、日中は散歩や趣味の時間、レクリエーションなどを行い、夜間に安眠できるような支援をおこなっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師との情報共有をしっかり行い、処方薬の内容の理解に努めている。服薬ルールを厳守し安全に服薬できるよ全職員が努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割の実施や、趣味を楽しむなど、けっして押し付けにならないよう支援に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を普段から聞き取り、可能な限り希望に添えるよう支援をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が強く希望される場合は手元にお金を所持してもらっている。物品の購入は家族とも相談しながら購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人専用の携帯電話を所持し家族や友人と自由に通話をしている方もいる。所持しておらず通話を希望される方には電話を取り次ぐなどの対応をしている。手紙についても同様です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を持ってもらえるよう、共用空間に季節に応じた飾り付けや花を生けるなどを心地よく暮らしていただけるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置を考慮するなど人間関係が円滑になるよう工夫している。気分や状態に応じ、居室でゆっくりできる時間も自由に取ってもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や、使いやすい物を自由に持ち込んでもらい、居心地良い空間づくりを実践している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適切な位置に手すりを配置したり、張り紙をしてトイレ等の場所をわかりやすくするなどの工夫をおこなっている		